

京都御池中学校・複合施設の「賑わい施設」の出店店舗決定！

～子どもから高齢者まで障害のある人もない人も共につどう

「人づくり・まちづくりのモデル」に～

京都御池中学校・複合施設は、中学校の整備とともに、**世代交流，共生のまちづくりの拠点施設**として、乳幼児保育所，老人デイサービスセンター，御池通にふさわしい賑わい施設やオフィススペース等を併設する複合施設として、**平成 18 年 4 月の完成及び中学校移転を予定**しています。

整備に当たっては、民間事業者の創意工夫や活力を最大限取り入れる P F I 手法を府内初，政令市の学校施設で初めて導入しています。

このたび，本市と P F I 事業契約を締結している民間事業者（アクティブコミュニティ御池株式会社）が，京都商工会議所等と協議のうえ，賑わい施設の出店店舗を次のとおり選定し決定いたしましたので，下記のとおりお知らせします。

今後，平成 18 年 4 月のオープンに向け，出店に当たっての契約や店舗の内・外装工事等について具体的に協議を進めていきます。

記

1 賑わい施設のコンセプト

民間事業者は，次のコンセプト及び本市との P F I 事業契約に基づき，賑わい施設の出店店舗を選定し，決定しました。

(1) 「人づくりまちづくりの拠点施設」が，具体化されること

① 京都御池中学校等の子どもたちが，複合施設内の乳幼児保育所，老人デイサービスセンターそして賑わい施設での職場体験，社会体験活動に取り組む「生き方探究・チャレンジ体験」推進事業の場となること。

② 「京都市立総合養護学校版デュアルシステム」（＊後述）とも連携し，障害のある子どもたちが雇用される店舗となること。

(2) 京都市とフィレンツェ友好姉妹都市 40 周年を記念し，フィレンツェをはじめとする北イタリアの情報発信，交流を促進する店舗となること。

(3) 本市の御池通シンボルロードへの取組の一環として，また京都商工会議所から要望のあった御池通の活性化に寄与する店舗であること。

2 各店舗の内容

京都御池中学校・複合施設の御池通に面した 1 階建部分約 350 m² (間口約 50m，奥行約 7m) に，次の 3 店舗が出店することになりました。

(1) 飲食店（イタリアンレストラン：店舗面積 178 m²）

(2) 物販店（靴，日用品雑貨等の小売店：店舗面積 50 m²）

(3) 飲食店（パン類の販売，飲食店：店舗面積 116 m²）

3 賑わい施設の外観

(1) 施設の外観は，御池通の賑わい施設のモデルともなるように，また出店予定者の意向や経済界が進める北イタリア・フィレンツェとの交流等を踏まえ，京都と北イタリアに共通する文化と歴史をデザインモチーフとした自然石の仕上げを予定しています。

4 賑わい施設の運営

- (1) 京都御池中学校・複合施設整備等事業においては、民間事業者のアイデアやノウハウを生かすPFI手法を導入して、設計・建設、維持管理等を一体的に行う契約を民間事業者と締結し、事業の具体化を進めています。
- (2) 京都市は、賑わい施設の運営に当たって、民間事業者に施設の使用を許可し、施設使用料を徴収するものとしています。また、民間事業者は、自らの責任において、出店予定者を誘致するほか、内外装工事等を行ない、独立採算で運営するものとしています。
- (3) 京都市は、賑わい施設の継続的な運営と施設コンセプトの実現に向け、民間事業者の責任及び義務に関する施設の運営委託契約を締結し、運営状況を確認していきます。

(参考) 障害のある子どもたちの雇用への取組

障害のある子どもたちの企業就職が依然として厳しい状況であることを踏まえ、本市では、総合養護学校での授業と企業での長期的・計画的な実習を組み合わせ、学校で学んだことを企業で実際に体験する中で、企業が求める人材を育成するという新しい職業教育システム（「京都市立総合養護学校版デュアルシステム」）の構築に向け、専門的見地から調査・検討を行っているところです。

※「賑わい施設」の出店予定者については、施設コンセプトの理解や総合養護学校の視察等を通じて、子どもたちへの理解を深めるとともに、出店予定者の企業職場等において、具体的に子どもたちの実習に取り組まれています。

今後、子どもたちの職場での実習の成果を生かし、出店予定者・学校・教育委員会の連携を図りながら、協働する賑わい施設の実現を目指します。